

整理番号 2037340033
発送番号 286150
発送日 平成20年 5月20日

Date of Issuance May 20, 2008

拒絶理由通知書

Notice of Reasons for Rejection

Patent Application Number. Japanese Parent Application No. JP2002-299361
特許出願の番号 特願 2002-299361
起案日 平成20年 5月16日
特許庁審査官 長谷川 素直 2948 5C00
特許出願人代理人 小笠原 史朗 様
適用条文 第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してください。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

・請求項1-23に対して、引用文献1-2

備 考

引用文献1-2には、選局要求に係る情報を記憶することが開示されている。(引用文献1については、例えば、[0035]段落、図12などを参照してください。)

一般に、(チューナを複数備えている場合などとはともかくとしても)同時に複数の選局処理を行うことは普通ではなく、結果、選局要求のうちの一の要求に係る選局処理を行うことになることは普通である。

一般に、或る処理に関係する情報を、当該処理の実行のために当該情報を記憶しておく必要がなくなった時点以降に(用済みであるなどの理由で)消去することは普通である。よって、次に選局するチャンネル等が判明して選局処理が始まったときや、選局処理が完了した時点で当該選局処理に係る要求を消去するように構成することは当業者が適宜なし得たことである。してみると請求項2,4に係る発明のような構成も格別とは認められない。

一般に、入力バッファの量に制限があったり、入力された要求等を記憶する個数に上限を意図的に設けることは普通のことである。してみると、請求項3等に係る発明のような構成も格別とは認められない。

また、入力バッファの量や記憶する個数は当業者が適宜決定すればよい設計的事項であることを踏まえると、請求項7等のように構成することも、当業者の通常の創意の発揮である。

一般に、記憶・格納可能な(記憶・格納可能と設定されている)個数・量を超える場合に、新たに入力されたもので既存の記憶・格納されているものを上書きすることは普通である。

してみると、請求項5等に係る発明のような構成も格別とは認められない。

放送受信装置において、要求した選局処理が迅速に行われるように構成することは、当業者に自明な課題である。

してみると、請求項7等に係る発明のような構成も格別とは認められない。

引用文献1には、アプリケーションを用いることも開示されている。また、一

般に、アプリケーションによる自動選局なども周知技術である。よって、請求項8等に係る発明のような構成も格別とは認められない。

他の請求項9-23に係る発明についても、同様に格別な構成を有するとは認められない。

なお、各引用文献に記載のもの・技術・技術思想は、当業者が単独で用いることができるものである。

各引用文献に記載のもの・技術・技術思想は、技術分野・技術内容・課題のなかに、共通・類似・近接するものがあるか、当業者に自明な課題が存在することにより、当業者が適宜組み合わせ用いることもできるものである。

引用文献等一覧

1. 特開2001-100871号公報
2. 特開平10-108087号公報

Cited References

1. JP-A-2001-100871
2. JP-A-H10-108087

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 IPC H04N5/44-5/46(2006.01)

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではありません。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせがございましたら、下記までご連絡下さい。

特許審査第四部 映像機器 担当：長谷川
TEL. 03(3581)1101 内線 3581